



医歯学総合研究科大学院特別講義／お茶の水ニューロサイエンスセミナー
(医歯学先端研究特論) (生命理工学先端研究特論)
(医歯理工先端研究特論)

ステロイドの脳内作用と修飾 ～神経変性疾患との関連～

演題

篠田 晃 先生

(山口大学大学院教授)

日時

2016年2月5日(金) 18:30 - 20:30

会場

医学科講義室 1(東京医科歯科大学 3号館 2階)

講演要旨

ステロイドは、核内受容体等を介して脳の機能分化や機能維持に強く影響を及ぼし、特にテストステロンの局所的芳香化によるエストロゲン産生が脳の性分化や認知症・鬱病等の発症に関連する事が指摘される。またステロイド受容体の核移行制御構造として斑点小体 STB/HAP1 が広く脳内に見出され、アンドロゲン受容体変異型脊髄球筋萎縮症 SBMA 等の神経変性疾患における細胞保護機能が報告される。今回は私どもが発見した脳内エストロゲン合成ニューロンや STB/HAP1 について性分化や神経変性疾患との関連を中心にお話します。

多数の皆様の御来聴をお願い申し上げます。

連絡先：精神行動医科学分野 西川 徹 ([Tel:03-5803-5242](tel:03-5803-5242))

共 催：東京医科歯科大学脳統合機能研究センター・WHO Collaborating Tokyo Centre for Research and Training in Mental Health